

# Asia Indicators

発表日: 2023 年 5 月 19 日 (金)

## 豪州の雇用環境に頭打ちの兆し (Asia Weekly(5/12~5/19))

~ニュージーランドの輸出は中国向けを中心に底入れが進み、11ヶ月ぶりに貿易収支は黒字に~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522/050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/12(金)	(香港)1-3 月実質 GDP(前年比・改定値)	+2.7%	--	+2.7%*
	(インド)3 月鉱工業生産(前年比)	+1.1%	+3.1%	+5.8%
	4 月消費者物価(前年比)	+4.7%	+4.8%	+5.7%
5/15(月)	(タイ)1-3 月実質 GDP(前年比)	+2.7%	+2.3%	+%
	(インドネシア)4 月輸出(前年比)	▲29.40%	▲18.55%	▲11.63%
	4 月輸入(前年比)	▲23.32%	▲7.85%	▲6.26%
	(インド)4 月輸出(前年比)	▲12.7%	--	▲7.2%
5/16(火)	4 月輸入(前年比)	▲14.1%	--	▲4.9%
	(中国)4 月小売売上高(前年比)	+18.4%	+21.0%	+10.6%
5/18(木)	4 月鉱工業生産(前年比)	+5.6%	+10.9%	+3.9%
	4 月固定資産投資(年初来前年比)	+4.7%	+5.5%	+5.1%
	(豪州)4 月失業率(季調済)	3.7%	3.5%	3.5%
5/19(金)	(フィリピン)金融政策委員会(翌日物借入金利)	6.25%	6.25%	6.25%
	(ニュージーランド)4 月輸出(億 NZ ドル)	68.0	--	62.8
	4 月輸入(億 NZ ドル)	63.8	--	78.7
	(マレーシア)4 月輸出(前年比)	▲17.4%	▲5.0%	▲1.4%
	4 月輸入(前年比)	▲11.1%	▲2.9%	▲1.8%

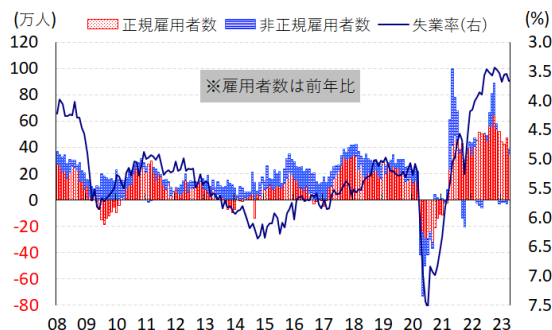
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。※は速報値

### 【豪州】~底入れの動きを強めてきた雇用到头打ちの兆し、移民拡大を受けて労働需給を巡る環境も変化か~

18日に発表された4月の失業率(季調済)は3.7%となり、前月(3.5%)から0.2pt悪化している。失業者数は前月比+1.8万人と前月(同+0.1万人)から2ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別では非正規雇用に対する求職者数(同▲0.4万人)が減少する一方、正規雇用に対する求職者数(同+2.2万人)の拡大が全体を押し上げており、中期的な基調も拡大傾向で推移する動きをみせている。一方の雇用者数は前月比▲0.4万人と前月(同+6.1万人)から4ヶ月ぶりの減少に転じており、雇用形態別では非正規雇用者数(同+2.3万人)が拡大しているものの、正規雇用者数(同▲2.7万人)の減少が全体を下押ししている。地域別では、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州で雇用拡大の動きが確認されるも、それ以外のすべての州で調整する動きがうかがえるなど、幅広い地域で底入れの

動きが続いた雇用が頭打ちに転じている様子がうかがえる。なお、雇用環境の堅調さを反映して労働力人口は前月比+1.4万人と前月（同+6.2万人）から9ヶ月連続で拡大するなど底入れが進んでいるものの、労働参加率は66.7%と依然過去最高水準で推移するも前月（66.8%）から0.1pt低下している。

図1 AU 雇用環境の推移

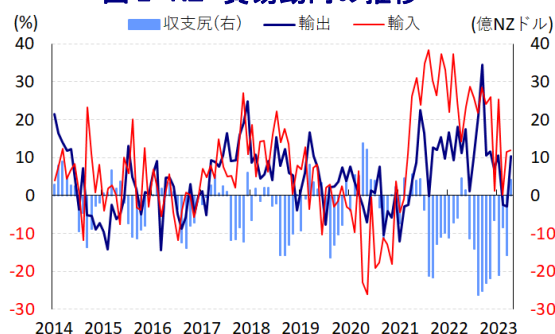


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [ニュージーランド]～中国向けを中心に輸出は底入れの動きを強めており、貿易収支は11ヶ月ぶりの黒字に～

19日に発表された4月の輸出額は前年同月比+10.4%となり、前月（同▲2.8%）から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+6.9%と前月（同+6.1%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である乳製品や食肉、木製品、果物などを中心に輸出額が底入れしている。国・地域別では、隣国の豪州向けは頭打ちする動きをみせるも、最大の輸出相手である中国向けのほか、欧州向けなどの堅調さが輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+12.0%となり、前月（同+11.4%）から伸びが加速している。前月比は▲1.1%と前月（同+12.2%）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れが続いた動きに一服感が出ている。原油の国際価格の調整の動きを反映して原油や石油製品関連の輸入額が下押しされたほか、機械製品関連の輸入も調整するなど幅広く輸入に下押し圧力が掛かっている。結果、貿易収支は+4.27億NZドルと前月（▲15.86億NZドル）から11ヶ月ぶりの黒字に転じている。

図2 NZ 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [インド]～インフレ率、コアインフレ率ともに目標域に収束するも、インフレ圧力が後退している訳ではない模様～

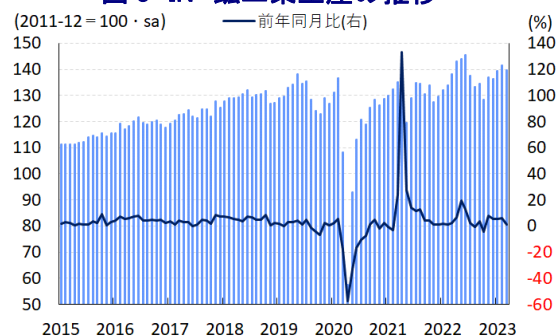
12日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+1.1%となり、前月（同+5.8%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きが続いてきた流れに一服感が出ている様子がうかがえる。分野別では、鉱業部門の生産に底堅い動

きがみられる一方、製造業の生産に一服感が出ていることが生産全体の重石となっているほか、発電量も減少に転じるなど幅広い経済活動に下押し圧力が掛かっている様子がうかがえる。分野別では、インフラ関連を中心とする建設資材関連のほか、一次産品関連の生産に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、資本財や中間財、耐久消費財などの生産に底堅い動きがみられる。ただし、非耐久消費財関連の生産は大きく弱含む動きがみられ、医薬品関連や電気製品関連など輸出財関連を中心に生産が下振れしている様子がうかがえる。

また、同日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+4.7%となり、前月（同+5.7%）から鈍化して2ヶ月連続で中銀（インド準備銀行）が定めるインフレ目標（ $4 \pm 2\%$ ）の範囲内で推移している。ただし、前月比は+0.51%と前月（同+0.23%）から上昇ペースが加速しており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の調整の動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かる一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇の動きを強めるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+5.19%となり、前月（同+5.78%）から鈍化してインフレ率同様、2ヶ月連続でインフレ目標の域内で推移している。しかし、前月比は+0.59%と前月（同+0.27%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の調整の動きを反映して輸送コストは安定した推移をみせる一方、国際金融市場における通貨ルピー安を受けた輸入インフレ圧力を反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、経済活動の正常化の進展を追い風にサービス物価にも上昇圧力が掛かるなど、全般的にインフレ圧力が強まる動きがみられる。

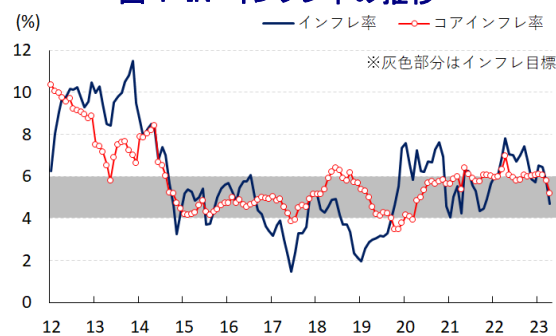
15日に発表された4月の輸出額は前年同月比▲12.7%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲7.2%）からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少しており、欧米など主要国を中心に世界経済の減速懸念が強まっていることが輸出の重石となっている。財別では、石油製品関連の輸出に底堅さがみられる一方、主力の輸出財である電気機械関連や機械製品関連のほか、宝飾品関連、化学製品関連など幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比▲14.1%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移している上、前月（同▲4.9%）からマイナス幅も拡大している。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。国際価格の調整の動きを反映して原油の輸入額に下押し圧力が掛かっているほか、輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して機械製品関連のほか、化学製品など素材・部材関連の輸入も下振れしている上、金をはじめとする宝飾品関連の輸入も鈍化するなど、全般的に輸入額に下押し圧力が掛かる動きがみられる。結果、貿易収支は▲152.40億ドルと前月（▲186.45億ドル）から赤字幅が縮小している。

図3 IN 鉱工業生産の推移



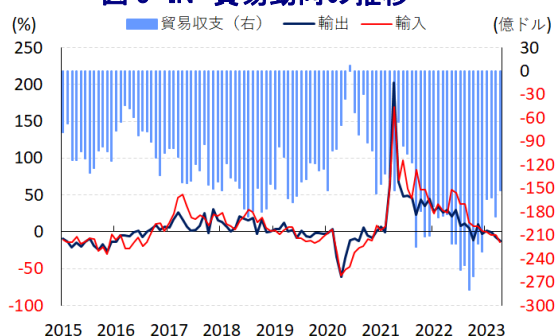
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 IN 貿易動向の推移

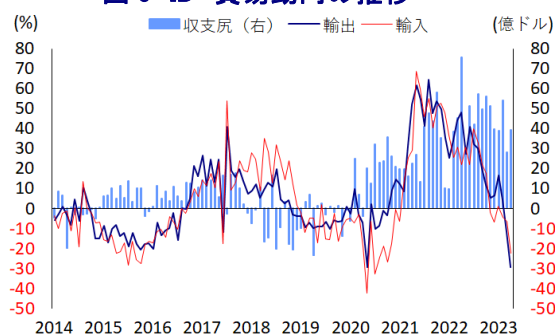


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [インドネシア]～世界経済の減速懸念や商品市況の調整を受けて輸出入双方で下押し圧力が強まる動き～

15日に発表された4月の輸出額は前年同月比▲29.40%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲11.63%)からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。原油の国際価格が調整の動きを強めていることを反映して原油・天然ガス関連の輸出額に下押し圧力が掛かっているほか、欧米など主要国を中心に世界経済の減速懸念が強まっていることを反映して製造業のほか、鉱物資源、農産物などすべての分野で輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比▲22.32%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲6.26%)からマイナス幅が拡大している。前月比も2ヶ月ぶりの減少に転じるとともに、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。原油価格の調整の動きを反映して原油や天然ガス関連の輸入額に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、輸出が頭打ちの動きを強めていることを受けて素材・部材をはじめとする幅広い分野で輸入に下押し圧力が掛かる動きがみられる。結果、貿易収支は+39.43億ドルと前月(+28.28億ドル)から黒字幅が拡大している。

図 6 ID 貿易動向の推移

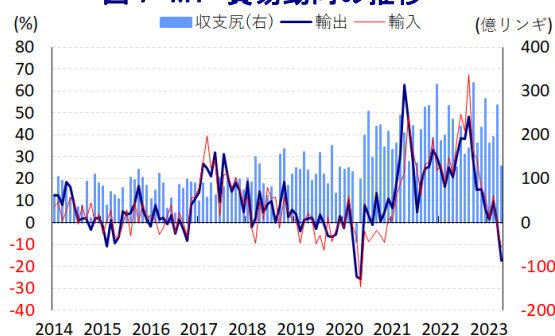


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～世界経済の減速や商品市況の調整の動きを反映して、輸出入双方で頭打ちの動きが強まる～

19日に発表された4月の輸出額は前年同月比▲17.4%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲1.4%)からマイナス幅が拡大している。前月比も▲16.3%と前月(同▲4.2%)から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、原油の国際価格の調整の動きを反映して原油や石油製品、天然ガス関連の輸出に下押し圧力が掛かっているほか、主力の輸出財である電子部品やパーム油の輸出額も下振れするなど、全般的に頭打ちしている。国・地域別でも、中国向けやASEANなど周辺国をはじめとするアジア新興国向けのみならず、米国やEU、日本など先進国向けも総じて下振れする動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比▲11.1%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移するとともに、前月(同▲1.8%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲11.4%と前月(同▲3.4%)から2ヶ月連続で減少しており、輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して、素材・部材など中間財関連の輸入に下押し圧力が掛かっているほか、資本財や消費財も低迷するなど全般的に輸入が下振れしている。結果、貿易収支は+128.48億リンギと前月(+266.88億リンギ)から黒字幅が縮小している。

図 7 MY 貿易動向の推移



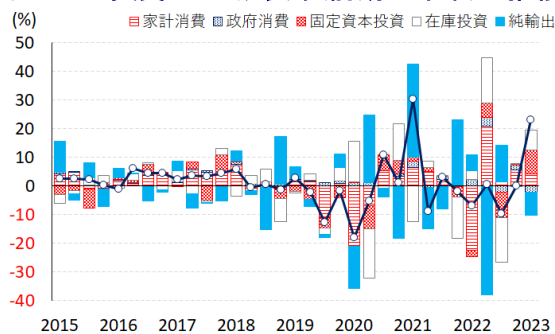
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港]～中国本土におけるゼロコロナ終了を受けて、内・外需双方で景気の底入れを促す動きが確認される～

12日に発表された1-3月の実質GDP成長率(改定値)は前年同期比+2.7%となり、今日2日に発表された速報値(同+2.7%)と同じ伸びとなった。なお、前期比年率ベースの成長率は+22.99%と速報値(同+22.95%)からわずかに上方修正されており、前期(同+0.13%)から2四半期連続のプラス成長となるとともに、ペースは大きく加速するなど景気は底入れの動きを強めている。中国本土におけ

るゼロコロナ終了や国境再開の動きを反映して、財・サービスの両面で輸出に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、ペントアップ・デマンドの発現の動きを反映して家計消費も底入れするとともに、企業部門による設備投資需要も押し上げられて固定資本投資も拡大するなど、内・外需双方で景気の底入れをけん引する動きがみられる。ただし、生産活動の活発化を反映した在庫の積み上がりが成長率を大きく押し上げる動きも確認されるなど、先行きについては欧米など主要国の景気減速懸念に加え、中国本土景気も回復が道半ばの状況が続くなかで、在庫調整が景気の足かせとなる可能性はくすぶる。

図 8 HK 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。